

「姫路で開催してくださりありがとうございます！」

第4回避難者健康診断@共立病院



森岡医師(小児科)



辻医師(小児科)



沖野医師(内科)

2015年2月11日、姫路医療生協の共立病院で第4回目となる避難者健康診断を実施しました。兵庫民医連では、原発事故の放射能の被害により兵庫県に避難された被災者のニーズに応え、2013年から甲状腺エコーを含む健康診断を県連内の事業所で年に2回のペースで行っています。

当日は、15家族40名(内科15名小児科25名、避難元別では福島県22名、栃木県2名、千葉県6名、神奈川県2名、埼玉県4名、東京都4名)が受診されました。

医師体制は内科2診(共立病院：沖野医師、東神戸病院：滝本医師)小児科2診(東神戸病院：森岡医師、保険医協会：辻医師)でした。今回から保険医協会の山中医師の協力(スタッフ3名含む)で眼科検診を取り入れました。オール兵庫民医連+保険医協会+ボランティアで総勢39名での健診が行われました。

甲状腺エコーのための超音波診断装置は今回もメーカーにご協力いただいた1台を追加し2台並列で実施し、滝本医師が甲状腺エコーの画像チェックで待機し、説明が必要な方には直接フィードバックを行いました。医学生(松原さん)も参加し、診察、甲状腺エコーの見学を行いました。清瀬総師長指揮のもと、看護体制では、小さい子どもさんも青年ジャンボリー(2名)の職員が遊具を使った遊びで緊張を和らげて採血ができ、流れもスムーズに行えました。

最終ゴールでは「私の健康記録ファイル」を渡して終了ですが、はじめはこわばった面持ちで来られた受診者の皆さんは、医療者に心配なことを話すことができたり、安心して検査を受けられたことで、お帰りの際はとてもすっきりとした表情をされていました。受診者の方からは、「多くの職員が参加し、温かい対応に心を打たれた」「子供もお祭りのようで楽しかったようだ」との感謝のお言葉もいただき、



参加スタッフ全員で



山中医師(眼科)



甲状腺エコー

また、母子避難者家族に対して家族避難者が心配し気遣う思いも寄せられました。

職員からは「健診の重要性がわかった」「実際に聴かないとわからない、貴重な体験をさせてもらった」「福島では十分な検診ができていない中での健診は意義がある」「これからも継続してほしい」「初めて出会う避難者の家族同士が仲良く遊んでいる姿に癒された」等感想がありました。(被ばく対策委員 松本理花)